

40号

2014

秋

かたらい

特別企画

やさしさに包まれた、心がよい合う家

「みんなおいで

あした

また明日！」

P2~



男女共同参画
シンポジウム
P10~
新しい家族のあり方
「パートナーシップと子育て」
鈴木光司 講演会



「国際比較」
P8~
スウェーデンの
暮らしから学ぶ
中澤智恵さん



小金井7
働く P6~
時は小金井で
作られていた!

やさしさに包まれた、心がよい合う家

あした

「みんなおいでまた明日！」

NPO法人 地域の寄り合い所 また明日



小金井市貫井南町に、子どもからお年寄りまで幅広く世代を超えた交流ができる地域の寄り合い所があるとお聞きして、訪れたのはNPO法人「地域の寄り合い所 また明日」です。ここは、2階建てのアパートの1階の5戸分の壁を取り払ってつくられた広く長いお部屋で、昭和のノスタルジーを感じさせる長屋のような造りです。ここには小金井市指定認知症対応型通所介護「また明日デイホーム」と独自の地域福祉事業「寄り合い所」、そして認可外保育施設「虹のおうち」が併設されています。

私たちが訪れた時は、小学生の女の子がトランプで遊んでいたり、椅子に腰かけている高齢者の方10名ほどが穏やかな表情でスタッフの方々と談笑していたり、幼児12名が布団やベビーベッドの上ですやすやお昼寝中でした。とても穏やかな時間が流れています。

こちらを運営されているのは、森田和道さん、眞希さんご夫婦です。本日温かい笑顔で出迎えてくれたのは、「まきさん」こと森田眞希さんです。お話をお聞きしました。

いつ頃から「また明日」のような施設をつくりたいと
思っていましたか



もともと子どもに関わる仕事をした
いと思っていた眞希さんは、上智社会
福祉専門学校に進み、そこで児童福祉
について学びました。同級生に、高齢
者福祉を学んでいた森田和道さんが
いました。お二人は出会ってすぐに意気

投合。その頃から、高齢者福祉や児童
福祉の枠を超えた、福祉そのものの在
り方などを語り合っていたそうです。

そして、卒業する5日前に結婚式を
挙げました。「たまたまなのですよ。
学内の教会が空いていて。神父様はそ
の日は仏滅ですよとおっしゃいまし
た。だから空いていたのでしよう。私
たちは、そうだったことは関係ないの
でその日にしますとお願いました。

実際には神父様の間違いで仏滅ではな
かったのですが(笑)。卒業後のお仕
事は、お二人は同じ法人の施設を選び
ました。和道さんはその特別養護老
人ホーム、眞希さんはその病院の小
児科で働いていたそうです。

大きなきつかけとなった出
来事は、ダウン症の女の子
との出会いです



ある日病院で、ダウン症の障がいの
ある女の子を預かった時のことです。
この女の子はとても人懐っこい子で、
お年寄りが大好きでした。だからお年
寄りに会うために、渡り廊下を通って
特別養護老人ホームに遊びに行くよう
になりました。するとその女の子は、
寝たきりだったお年寄りのベッドに潜
り込み、その方を『ばくば』と呼んだ
そうです。それはとても自然な振る舞



いでした。そのお年寄りも答えるようにその子をぎゅっと抱きしめました。極めて自然にお互いを受け入れていたその姿に真希さんは感銘をうけて、高齢者や子ども、障がいの有無に関係なく一緒に共有して過ごすことができる場所があったらいいなと考えるようになったと言います。

「また明日」がこの場所に開所できたのは、偶然でした

介護保険制度が始まるのに合わせ、1999年に和道さんと真希さんは仲間とNPO法人を立ち上げて、こことは別の場所に、居宅介護支援とデイホームの施設を開所し、その場所を子育て真っ最中の親子にも開放しました。数年経ち、和道さんと真希さんは高齢者と保育をかね添えた施設をつくりたいと思いました。それには当時の場所は保育のスペースを確保するには手狭だったので、新しい物件を探し始めました。

そんな中、偶然和道さんがこのアパートの横の道を車で通りました。その時この場所がとても気に入って、アパートの1階を使えたらと思ったそうです。「普通、1階をぶちぬいて長屋をつくりたいって言ったらびっくりし

ますよね。先代の大家さんがとてもいい方で、その話を大変面白がって許可をしてくれました。その後もこの施設を近所の方に紹介したり、宣伝したり、本当に多大な協力をしてくれました。開所して2年目の同じ日に残念ながら亡くなってしまったのですが、本当にかわいがってくださり、先代がいらいからこそ今があるのだと感謝しています。今の大家さんである先代の息子さんも、大変よくしてくれます。そして近所の方も、ボランティアで草むしりをしてくれたり、犬の散歩をしてくれたり、差し入れをしてくださったり、本当にたくさんの方に助けていただいています。私がおおざっぱで完璧ではないから、ほっとけなれと思つて手伝ってくれるのだと思います」と真希さん。

ご謙遜されていますが、彼女のお人柄が多くの方を惹きつけるのでしょう。

笑顔で語る森田真希さん



そんなお人柄を育てたのは、子ども時代の環境でした

眞希さんのご出身は練馬区で、ご近所は子どもをみんな育てようという環境だったそうです。「私はご近所に育ててもらったなと思っています。当時、土曜日の午前中は学校があり、お昼は、だいたいどこかご近所のお家でごはんを食べていました。土曜日のお昼に遊びにきた私のお友だちに、母が『二軒先のおばさんのお家でごはんを食べているから、あなたたちも食べてきたら』と言ったら驚いていたそうです」と眞希さん。最初は遠慮していたお友達でしたが、その後は眞希さんと一緒にお昼をいただくようになったとか。また眞希さんのお家でも、多くの方が出入りされていたそうです。

眞希さんのお母様もPTAやご近所のお世話で大変ご活躍され、お祖母様もそうだったそうですから、そういう性格を引き継いでいらっしやるのでしょうか。ご近所で助け合うのは当たり前、誰かのお家の方が倒れたらお世話をし、子どものお弁当を代わりにつくってあげる、そして子どもたちも歳が近い子も離れている子もみんな遊ぶという環境だったそうです。

そういう環境の中で、眞希さんは人

の多様性を認めるという考え方が自然と身につけていったと言います。「例えば太巻きひとつとっても、他の子のお家に行くともきれいに巻いてあるのです。その太巻きは包丁できちんときれいに切っており、切った表面は絵柄になっている。うちの母の場合は、太巻きが1本、お皿にどんと出てくる(笑)。いろいろな家があるのだなと思いました」

眞希さんと和道さんの役割分担はありますか



「家事は全て私、眞希がします。和道は家のことはしません。電子レンジの使い方もわかりませんし、掃除機は

眞希さん(左)と和道さん(右)



触ったことがないかも。(笑) 家計のことは全て和道です。大阪出身者らしく大きな買い物の時など値切るのも上手いので、がっちりがめつく貯めてくれると思いきや、自分が納得したことにはばっ!と使うので、全然貯まりません。(笑) 私もそんなに頓着しないので、まあ、そんなものかと思っています。若い頃は家事のことやお金のことでケンカしたこともありましたが、今は生活していくうえでの諸々のことを、どちらがやった方が上手かで決まっていた感じです」と眞希さん。

例えば料理は眞希さんの方が手際がいいので眞希さん、旅行の計画、準備は和道さんの方が完璧なので和道さん、という分担です。仕事についても同じで、事務処理は和道さん、様々な方々のお付き合いや集まりの参加は眞希さん。そしてお互いの専門分野には、あえてあまり首をつっこまないようにしているそうです。

「根本的な所では意見が一致していますので、一緒に仕事ができるのでしよう。そういう意味では2人合わせようやく一人前であることをお互い自覚していると思います」と眞希さん。お互いを尊重して認め合い同じ方向に進んでいくという、とても理想的な関係ですね。

「また明日」という名前への思い



『また明日』と言うと、『また逢いましよう』という意味ですから、明日、未来に明るく向かう気持ちにさせられます」と眞希さん。何気なく交わす「それでは、また明日」という言葉には、「明日もがんばりましょう」といったエール交換、明日という未来への希望、今日という日を互いに無事に過ごせたことへの喜び、感謝。そんな思いが込められているそうです。

相手を尊重し、「一歩待つ」ことを心がけています

何でもやり過ぎてしまわないことが大事と眞希さんは言います。「その方に障がいがあったとしても、その方がもっている力を引き出すことを心がけています。先回りをすると、その方の成果や喜びを奪い取ることになるからです。子どもにごはんを食べさせたり、子どもの着替えをお願いしたりしています。子どもの鼻が出ているときもすぐ気が付かれて『ちーんしよね』とぶき取ってくださいます。すると子どもが母親から、『うちの子をかわいがってくださいあってありがとっございませす』

とお礼を言われて、うれしい気持ちになりやすいね」。またその方が子どもを抱き上げようとした時、危ないからやめてくださいとは、言わないそうです。それは、「本人がそう言われたら嫌な気持ちになるでしょう。だから抱っこはしてもらって、危なくないようにその方の後ろについてフォロワーをしています。『歩いて下さい』と言われて歩くよりも、その方が泣いている子どもを見つけて『大丈夫?』といっで歩いて近づく。同じ歩くという行為でも、後者は心が動いて自発的に歩いたことになりやすから」。

日々の生活についても、何曜日の何時に「歌の時間」というような規則正しいスケジュールを決めていないと言



います。「天気がよかつたら外に行き、天気が悪い時や、調子が悪ければ家にいます。子どもたちの散歩に一緒に行きたければ一緒に行くなど、その方の自主性を大事に考えています」。

眞希さんたちが高齢者に対して尊敬の念をもって接すれば、子どもたちも敬意をもって高齢者に接すると言います。そんな温かい関係が和やかな空間をつくっているんですね。

季節感や何気ない日常の出来事を大切にしています

昔からの季節行事を大切にしていると眞希さんは言います。「一番大きなイベントはお餅つきと節分です。お餅つきは、ご近所の

方もみんなでお餅をつきます。節分は、園長先生（和道さん）が鬼の衣装をきて、合法的に子どもたちを泣かしています。（笑）今、怖いもの、恐れるものがなくなってきたよ。だから恐れるということは大



事だと思っています」。そしてひな祭りには、お雛様を飾ったり、綺麗なお花が近くで咲いていればそれを見に行ったり。そんな何気ない日常を大事にしているそうです。

「子どもの頃の記憶って、私たちもそうですけど、何か大きなことやどっかに行ったということよりも、近くの野川に行ったことや何かちょっとしたものをもらったことなど、そんなささいなことが印象深く残っていたりしませんか。よく『まきさん、おなかすいた。おにぎりつくってよ』と小学生の子が来ます。おにぎりを食べながら、『今日学校でこんなことがあったよ』なんて話をする、そんな日々を大事にしたいと思っています」。

楽しみなことは、ここに関わっていた子どもたちのこれからです

「ここを巣立った小学生の子から学習発表会があるから見に来てと言われて、ここの子どもたちとお年寄りと一緒に見に行きました」とうれしそうに語る眞希さん。「10のうち、8くらいは大変なことがあります。でも、後の2くらいやっていてよかったなと思うことがあれば、苦労は打ち消されますよ」と話す眞希さんは、とても素敵でした。



取材を終えて

保育所と介護ホームと地域の方や子どもたちが入り混じる施設は、東京都ではここだけだそうです。眞希さんと話すと、すべてを包み込んでくれそうな優しい空気を感じます。周りの人を巻き込みながら、お互いを尊重し、みんなが心地よい空間をつくっていくという姿勢が、成功している秘訣だなと思いました。（高）

小金井

で働く



時は小金井で作られていた!

情報通信研究機構を訪問

花土ゆう子さんインタビュー

7月3日、同研究機構を訪問しました。この研究所の敷地は非常に大きく、小金井市から通りをはさんで小平市にまで及んでおり、建っている建物も郊外としては場違いなくらい大きな建物がたくさん並んでいます。東京学芸大学の隣でもあり、この一角は小金井市の中でもちよつと際立っています。今回は、同機構の電磁波計測研究所 時空標準研究室長の花土ゆう子さんをお訪ねし、お話を伺うことにしました。

情報通信研究機構の成り立ち

そもそもこの研究機構は、明治29年に設立された通信省^{ていしんしょう}※の電気試験所に始まりま
す。その後郵政省の電波研究所から通信総合研究所となり、2001年郵政省が総務省に再編されたことよつて、2004年4月1日、通信総合研究所と通信・放送機構を統合して、独立行政法人情報通信研究機構となりました。略称は、NICT (National Institute of Information and Communications Technology) です。情報通信分野の唯一の公的研究機関であり、情報通信技術の最先端を研究開発するとともに、それを社会の中にも還元しています。インターネットに変わる新しいネットワークの開発、多言語コミュニケーション技術、未来の情報技術のための基盤整備などのほ



かに、宇宙天気予報や日本標準時なども供給しています。

NICTは、光ネットワーク研究所、ワイヤレスネットワーク研究所、ネットワークセキュリティ研究所、ユニバーサルコミュニケーション研究所、未来ICT研究所、電磁波計測研究所の6つの研究所と5つのセンターで構成されています。職員数は929名[※]で、そのうち研究者数は531名です。女性管理職は9名で、小金井の本部では7名ということです。有期研究者の雇用は、1年以内の契約ですが、5年を超えない範囲で更新することもあつてつです。

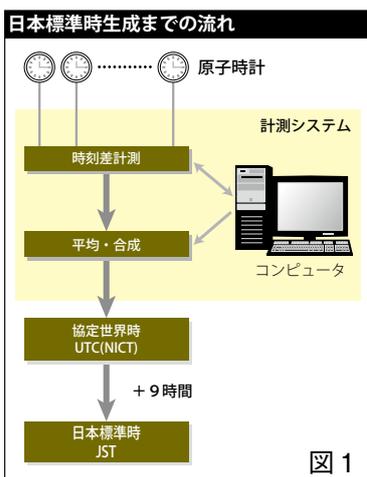
※^{注釈} 通信省^{ていしんしょう}がたつて日本に存在した郵便や通信を管轄する中央官庁のこと。

※^{注釈} 職員数等[※]役員を除く有期雇用職員とパーマネント職員。平成26年4月1日現在。

日本標準時を作っています。

今回は、このNICT小金井本部の電磁波計測研究所の中にある、時空標準研究室を訪ねました。こは、日本の標準時を作っているところなんです。あれつ、明石じゃなかったのかなと、皆さんは思つていらつしやるのではないのでしょうか。さすがに電波時計を使つている現在ですので、明石ではなくて、確か福島だったのではないだらうかとは思つていました。それでも、学校では明石が日本標準時だと教つたような気がするのですが。

確かに、電波時計用の時間の発信場所は、福島県田村市、双葉郡川内村にある「おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県佐賀市、福岡県糸島市にある「はがね山標準電波送信所」の2ヶ所です。では、日本標準時はどのように作られているのでしょうか? 図にするつと、図1のようになります。

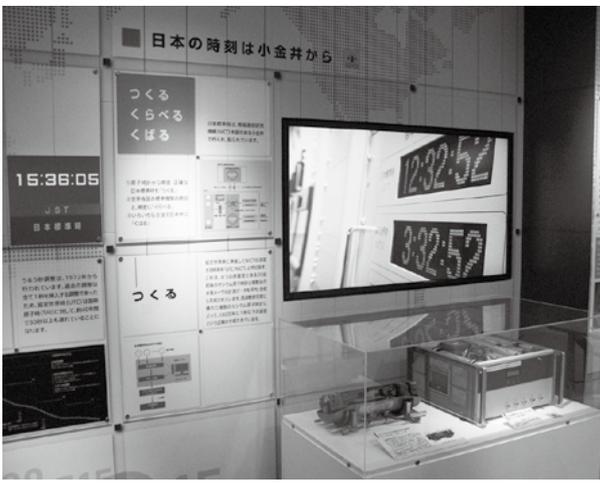


世界の標準時は原子時計から作られており、日本標準時も同じよつに原子時計から作られています。現在、世界の標準時は、

東経0度を基準とする協定世界時(UTC)です。日本標準時(JST)は、東経135度(明石)での時刻なので、協定世界時(UTC)よりは9時間進んでいるそうです。日本標準時は、NICITにあるたっくさんの原子時計から作られます。原子時計は、湿度や温度、地球の磁場などで影響を受けるので、それを防ぐために特別の部屋に設置されています。そして、これらを平均・合成することにより、日本標準時を作り出しています。それらが両送信所から全国へ発信されるわけです。

少し、難しかったですか?でも、日本標準時が、小金井市で作られているとは想像もしなかったでしょう。少し誇らしいとは思いませんか?

なお、インターネットに接続しているパソコンでは、時計合わせが自動でできるよ



うです。Windows 8.1の場合、「設定」のところのコントロール・パネル、「時計言語および地域」をクリックし、「日付と時刻の設定」、「インターネット時刻」、「設定の変更」でサーバに、ntp.nict.jp と入力してみてください。さて、できましたでしょうか?

時空標準研究室長 花土ゆう子さんに伺う

時空標準研究室には33名の研究者が在籍しています。花土さんに、なぜこの研究に携わったかを聞いてみました。花土さんが若い頃は、天文学に興味を持っていたそうですが、大学では、金属を専門に勉強されていたということ。しかし天文学への思いは持ち続けていたので、就職活動のときに、NICITが茨城県鹿島市に宇宙技術センターを持っていることから、公務員試験を受けて採用されました。そこで、パルサーという電波星の観測システム開発を6年くらい行い、その後、人事異動で本部のある小金井に移ってこられました。

職場の環境は、育児休業制度のほか、在宅勤務や子どもの保育のための時短制度もあり、子どもを持ったなら育てやすい環境とのこと。平成26年4月1日現在、3名の方が育児休業中とのこと。また、定時退社日が設けられており、毎週水曜日のほかには、給料日とボーナス日がそれに当たるそうです。勤務時間としては、フレック

クス制を活用して、柔軟な勤務時間としている職員が多いそうです。

お休みの日はどのように過ごすかという質問には、「共働きなので家事をまとめてやっけてしまわなければなりません。まずはゆっくり寝たいですね」ということでした。花土さんご夫婦は、家事の分担は共同で行っているそうです。花土さんの最近の趣味は、プリンターで草花づくりや山歩きだそうです。

室長という管理職としては、研究者のモチベーションが下がらないように気をつけているとのこと。予算が削減される中、若い人を採用するのも難しく、職員の年齢層も上がっているそうです。若い人を採用し、研究の技術を継承していくのはとても重要なことだともおっしゃっていました。研究所としては、女性を増やそうとしているとも言っていました。また、職場の人間関係には恵まれており、メンバーとも楽しく仕事をされているそうです。



花土ゆう子さん

最後に、時をどのように捉えているかという質問には、「日本標準時の仕事は、途切れてはいけない、間違ってもいけない。後戻りも出来ないし、やり直しもきかないところが大変です。」とお答えになりました。

後輩へのアドバイスとしては、「視野を広く持ちましょう。やりたい仕事をあまりにも限定的にしない方が良いのでは。最初は自分のやりたい仕事でなくても、与えられた仕事を没頭してやっけていけば、面白くなる時がきくと来るはず」ということでした。

取材を終えて

建物は大きくて、いろいろなものがたくさんあったけれども、日本標準時のことなど、初めて知りました。とても楽しかったです。インタビュの後は、本館1Fの展示室を見学しましたが、面白いものがいっぱいありました。写真もとれますので、皆様も一度見学されてはいかがでしょうか。なお、NICITには定期見学会や夏休み特別公開もあります。是非、お父さん、お母さん、子どもたちで参加してはいかがでしょうか。(佐)

国際比較

中澤智恵さんに聞く

スウェーデンの暮らしから学ぶ

東京学芸大学で教鞭をとり「ジェンダーと教育」を研究し、国際結婚をされている中澤智恵さんをお訪ねしました。

ご専門は社会教育学と伺いましたが

大学院人間科学研究科で社会教育を専攻した後、1995年から学芸大学で「ジェンダーと教育」について研究して19年です。家庭、学校、社会と、人が生きる過程で直面するのが「ジェンダー」(社会的・文化的な性差)です。今は学校や大学だけでなく、社会教育・生涯学習として、各地の男女共同参画・女性センターや公民館等で学習講座が開催されています。そういう講座の講師を務めたりすることもあります。

パートナーとの出会いは?

ジェンダーと社会教育の分野でスウェーデンは私にとってあこがれの地でした。

2001年から10ヶ月間、文部科学省在外研究(若手枠)でスウェーデンへ行ったことを契機に、その後2007年秋に4ヶ月間、今度は大学から「スウェーデンの生涯学習」をテーマに派遣されました。その時にインタビュースタッフが夫、サムです。大学教員で成人教育の研究者です。

彼とは大事にしている価値観が一緒だとピンとききました。知り合ってから7年、結婚して4年経ちます。彼はスウェーデン暮らし、私は日本との往復で、長期休みの時に調査研究を兼ねて、ノルンヨーピンドで暮らします。

お互いに知れば知るほど文化的な違いを感じるので、しっかり向き合うことを大事にしています。教員どうしゆえか、「教えたがり」すぎてしまつてケンカになることもしょっちゅうです。彼はケンカの後、「こうだった」と理由を説明するんです。私としては「理由は解つたけれど、一言ごめんねを言つてほしいのに・・・」と。スウェーデン人はあまり謝らない気がします。(笑)腹がたつても話し合う努力が必要ですね。

彼は、日本はテクノロジーが進んでいるのに、いつまでも男女差別が残る不思議な国という印象をもっているようです。日本で、喫茶店のスタッフが皿を洗いながら「いらっしやいませ」というのを見て、複数の業務を同時に一人がやるのは大変だと言ひ、我が家のウォッシュレットトイレや「お風呂が沸きました」の音声通知に、ツーマッチテクノロジーと言ひました。スウェーデンでは、古い

ものやハンドメイドもとても大切にします。家も手作り、DIYやガーデニング・園芸は多くのスウェーデン人の余暇活動です。レジャーがてらキノコ狩りをした時、「カンタレラ」という種類のキノコだと思つて食べようとしたら毒キノコだったこともありました。

夫は、家事も全て平等があたりまえと思つています。彼が後でやると言つていた食器を私が洗つたら、感謝はされず「君が勝手にやった、君がやりたかつたからだよ」と、自分の仕事をとつたくらいの言われようでした。

スウェーデン人の暮らしぶりはどんなものでしょうか?

基本は男女共働き、育児休暇明けにパートに変わつて働く人もいますが、日本と異なり、パート労働者も正社員も時間給はほぼ同額です。育児をしながら働くのが自然で、職場への肩身の狭さなどのストレスはありません。それぞれ父親・母親しかとれない育児休暇期間も設けられ、男性の取得も増えました。知り合ひの話ですが、「仕事の途中で時間もなければ帰ります、たとえコピーの途中で



中澤智恵さん

というような定時帰宅が基本の働き方です。

図書館分館も昼休みには閉館。労働組合が強く、労働環境や福利厚生も整っています。常習的な残業は無く、4、5週間の連続夏季休暇も取ります。休ませないと管理者にはペナルティーが課せられます。大学には、教職員用のランチルームにフルーツやお茶・牛乳が常備されていて、午前と午後のお茶の時間に自由に食べられました。

朝8時〜夕方4時くらいが一般的な労働時間で、帰宅後はガーデニングや芸術活動といった趣味や生涯学習を楽しみます。仕事とは別に生きがいを持ち、玄人はだしのシンガーソングライターやロックバンドなども多いようです。知り合ひの頃、夫に「あなたの趣味は?」と聞かれ、日本では「仕事しかしてない」といったら「つまらないね」と言われました。

第二次世界大戦に参加しなかったス



ウエーデンは、有事に備えて蓄えていた国家財源を元に社会福祉国家としてスタート、女性解放と差別の無い政策を同時に進める制度を作りました。国は人材が最重要と考え、教育に力を入れ生涯教育制度も整えました。選挙の投票率は高く、育児休業など日本から見るとうらやましいほどの政策ですが、国民が選んできたものです。

1990年代に入り不景気の中、社会民主党から右派政権へいったん交替した後、新自由主義の影響から社会福祉は後退したとの議論があります。今年の9月に総選挙がありますが、どういう結果になるでしょうね。スウェーデンの政治意識ですが、高校生も選挙時に模擬選挙を行い、その結果が公表されることで、若い人はどう考えているかがわかり、実際

の選挙にも影響すると言われています。18歳選挙権で、デモに参加する生徒も多くいます。

小学生のころから、児童会・生徒会で意見を言う場があるなど、権利意識を培う教育がされ、協調性は重視されますが、集団で・みんな仲良くという横並び意識よりも、自立心が強く求められます。

また、性別役割分業の意識を変えるところではなく、男女平等に制度を変えようと、例え心の中では男は仕事で女は家庭で良いと思う人がいても、それでは暮らして廻っていかず、必然的に結果として男女平等観が育つという考え方のようです。

子どもの医療費は無料、教育費も大学まで無料。高校卒業程度の学歴がないと安定した職業にはつきにくいのですが、移民の子どもたち、なかでも男性に中退者が多く、教育の課題となっています。

私が実施した卒業間近の高校生の進路アンケートの回答に、大学・専門学校進学や就職の他に、仕事を探す、外国を旅行するなどがありました。卒業したら一斉に就職して働き始める日本からすると、のんびり具合に驚かされます。

専門学校や公的成人教育の生涯学習制度が充実していて、再教育・訓練を受けての転職はよくあることです。知人にも、シエフからペンキ塗りになった人もいれば、栄養士、フィットネス講師を経て、ジェンダーの研究をしている人もいます。

離婚率は高いです。子どものために関係を修復しようとはしますが、我慢はし

ない。子育て後の熟年離婚も多いが、その後の再婚も多い。晩婚化は日本と同じです。

スウェーデンは合理主義の国ですが、伝統文化や行事も大事にしています。クリスマス、イースターや祝日行事も多く、子どもの誕生日を含めてファミリーでよく集まります。ティーンエイジャーは恋人も連れてきて、親の前でも熱愛ぶりを隠しません。夫のファミリーもパーティーが多いですよ。



友人宅での赤ちゃんの名付けパーティー

智恵さんのご両親はどんな方ですか？

父は、高知の封建的な「いごつそう」(頑固もの)で、男尊女卑の権化のような人です。女は「ひっこんでろ」という土地柄ですが、実は女性が支えています。私は、長女で弟と妹がいますが、ジェンダーの視点を初めて、自分の父親を理解することができました。大学から大阪に

出て親元を離れましたが、父は私が就職して何年も経って東京でマンションを買った時に、やっと一人前と認めてくれたようです。

母は、自宅で洋服の仕立てを内職のような形でしていました。自分が結婚生活で苦労したせいか、私には「やりたいようにしなさい」とほんとうに自由にさせてもらいました。

これからの夢を教えてください

いずれスウェーデンに移住したいと考えています。もっとスウェーデンを知りたい、多文化を知りたい、その中で日本が見えてくる。さらに社会教育の分野で貢献していきたいと思えます。



取材を終えて

少女のようなチャーミングな笑顔の智恵さんから、暖かさや元気をもらいました。なぜスウェーデンでは男女平等があたりまえなのかと聞いていましたが、制度が国民を育てることに納得しました。スウェーデンは日本が学ぶことが多々ある素敵な国です。(加)

男女共同参画 シンポジウム

新しい家族の あり方

―パートナーシップと子育て―

鈴木光司 講演会

6月29日、市民会館萌え木ホールで男女共同参画シンポジウム「新しい家族のあり方〜パートナーシップと子育て〜」が開催されました。たくましく筋肉にタンクトップを身にまとい、颯爽と登場した作家の鈴木光司さん。常に濃密な文体の中に、あらゆる恐怖を描き込む作品と、メッセーじ性豊かなエンターテインメント作品で、多くの読者を魅了し続ける同じ作者とは思えない風貌と語り口に、圧倒された講演会でした。

また、子育てに、家族への思いやりと関わり方をユーモアに、洒脱しゃだつに語られ、聞き手の心に染み入る講演会でもありました。(吉)



はじめに

世の中には、好運な人生があるのがほとんどで、運の良さは、男でありながら子育てというものに、深く係わることででき、それはラッキーに作用するものだと思っています。

私が小学校5年生の時、決めたことが三つあります。一つ目は、将来作家になること。二つ目は、太平洋を自力で横断すること。三つ目は、5年生の時に出会った初恋の同級生の女性を自分の妻とすること、でした。

三つのターゲット

その① 将来、作家になること

大学時代から、作家になることを決意しておりました。けれどこれまで、学生から作家としてデビューした人は、少ないんで

す。

学生時代から塾の講師や家庭教師、配達業など様々なアルバイトを経験しました。卒業時、定職を持つと作家への道は厳しくなると判断し、作家活動に専念したのですが、長女が生まれたのと(現27歳)、妻が高校の歴史教諭として働いていたこともあり、自ら子育てに挑戦しました。

子育てに時間とエネルギーを注いだ結果、小説力(内容と執筆量)がレベルアップ。また、それが、ほど良い重さ、ほど良い責任感が増したと思っています。

1989年、塾の講師の看板を降ろし、原稿用紙500枚にわたる小説「リング」を書きあげ、角川書店に送りました。その頃、角川書店では、「横溝正史賞」(賞金1千万円)を募集中でした。同社の編集長から「リング」は、「受賞の最有力候補です」との意向を受けました。その時、我が家の家計は、ピンチの時でしたから、1千万円の賞金は妻も大喜び、とても魅力的でした。

しかし落選!落選した時はショックで、その後の生活を考えると、「リング」の登場人物より怖い思いました。(笑)

その後、「楽園」を新潮社から発刊、「日本ファンタジーノベル大賞」優秀賞(賞金500万円)を受賞、本格的作家デビューとなります。その頃、二人目の娘が誕生現23歳、小説家と子育てという二足のわらじをはくことになりました。

最初は売れない時期もあって、子育ては、私が7割、妻が3割を担当していました。私の一日のスケジュールですが、朝7時に妻が学校へ向かった後、娘との朝食や身支度を整え、9時には娘たちを保育園に送ることにあります。帰宅後、執筆に取り掛かり、午後には原稿の手直しなどをして、夕方5時30分に保育園に迎えに行く、という生活を10年間続けました。

洗濯は、量を減らすため、自分は短パンとTシャツ、上下で千円もしません。娘たちには、当時、実家の母から送られてきた

10枚300円の同じカラーのシャツを着てなしておりました。親子があまりにもみすぼらしい格好のため、近所の八百屋のおばさんから、人参やネギなどの野菜の恵みを受けました。きつと、一人で子育てをしている「妻に逃げられた哀れなお父さん」と見られたでしょう。(笑)

後日談ですが、当時のことを「週刊文春」にエッセーとして書いたのですが、あの八百屋のおばさんが、「あれ、読んだわよ。あんた、作家で奥さんいたのね?」と問いかけられました。私は、「おばさんは、僕のことを妻に逃げられた哀れなお父さんと思っただんですか?」と言つと、おばさんから「他にどう見えるの?」と言われました。(笑)

その② 太平洋横断

アメリカに向けて、太平洋を横断するということを考えています。しかし、アメリカ



力にたどり着くまでに寄れる島はハワイだけなので、それだと距離が長く感じられて退屈かなと今は保留中です。例えば、小笠原からグアムに行き、パラオを経て沖縄、そして黒潮に乗って戻ってくるというコースも楽しいかなとも思っています。

過去に、出版社から依頼された執筆を頓

挫して、編集者には何も打ち込んでいない空のフロロピーを渡して、沖縄までヨットで行ってしまったこともありました。(笑)

その③ 初恋そして結婚

小学校5年生の時、同級生の女子と出会い、いつか妻となることを予感しておりました。

「結婚するなら彼女じゃない」と思い続けたのですが、片思いとして留まっていました。

中学生になり、親友の同級生に彼女宛ての手紙を託したのですが・・・。一向に手渡されず、その手紙は同級生の仲間に回し読みされていたのです。

私は、高校、大学と彼女と違った学校に通っており、彼女は大学卒業後に高校の歴史の先生になっていました。当時彼女にはフィアンセもいませんでした。しかし、私はどうしても彼女と結婚したかったので、1984年1月、彼女にプレゼンテーションし、「戦闘開始!」。翌年のバレンタインデー前日にプロポーズ、結婚の承諾を得たのです。

男女共同参画について

男女共同参画についてですが、今日では一人子育てをする「哀れみ」のお父さんから、積極的に家事や育児をこなす「颯爽」としたお父さんが増えつつあります。大変良いことです。後者のお父さんになるには、三つの事柄を速やかに、かつ同時に手際よくこなすことです。

- 食事の支度…献立は事前に考えておく。
- 入浴と洗濯…我が家は手狭だったので効率的にしています。洗濯を迅速かつ、手際良くするため、汚れた子どものオムツと真っ白な妻のブラウスを一緒に洗濯機に入れたことがあります。それを、妻が発見! 「以後、そうした雑な洗濯は、今後一切しません」と詫言ました。(笑)

考えてみますと、そうした手際の良い行動は、母の影響を受けています。私の母はずっと働きながら子育てをしたお母さん。一方、妻の母は、家事、育児を丁寧にする専業主婦のお母さんでした。互いにその影響を受けていると思いますので、やり方はそれぞれ良いのだと思っています。

これまで、私が小学校5年生の時に決めた三つのターゲットと男女共同参画についてのお話をしました。考えてみますと、娘二人の保育園の送迎、入浴や身のまわりの世話などが10年間続きましたが、これらは私にとって、作家への道のりへ歩む力にもなったと思っています。

たとえ疲れを覚えても、それを上回るエネルギーを得た、貴重な時間でもあったのです。

男女共同参画関連の会議に参加してみませんか

市では、男女共同参画社会の形成の促進に係る研修等に参加する市民の方々に、参加費補助(旅費及び参加費の諸経費の2分の1)を行っています。詳細については、市ホームページにも掲載しています。申込み方法等、ご不明な点がございましたら男女共同参画室(☎042-387-9853)までお問い合わせください。

【補助対象】

東京都及び東京都に隣接する地域で行われる男女共同参画に係る研修、講演、シンポジウム、分科会等(宗教及び政治活動並びに営利等を目的とするものを除く)

【応募資格】 次の条件をいずれも満たす方

- (1) 当該研修等に参加する日現在で、本市に2年以上居住し、18歳以上の方
- (2) 男女平等及び男女共同参画に関心を持ち、地域活動及び市行事に積極的に参加できる方

マザーズコーナーのご紹介



ハローワーク立川 北口駅前 JOBぷらっと

子育てとお仕事の
両立を目指す方、
応援します！

◎担当制によるきめ細かなサポート

専任の相談員がご希望・状況をお聞きし、就職プランをアドバイスいたします。
また、保育情報などの子育て関連情報の提供もおこなっています。

◎お子様連れでも安心してご利用いただけます。



お子様を遊ばせながらお仕事の検索や相談ができます。キッズスペース・ベビーチェア・授乳室の備え付けがございます。

☆ご利用には、ハローワークでの登録が必要です。ハローワークカードをお持ちでない方は、マザーズコーナーをご利用いただく際に、同時に登録していただくこともできます。

☆外出できる時間が限られている、子どもも一緒なので待ち時間なしで相談したいなどの方は、相談日時のご予約も可能です。



お問い合わせ・ご予約は……

ハローワーク立川 北口駅前JOBぷらっと マザーズコーナー

〒190-0012 立川市曙町2-7-16 鈴春ビル5階
☎ 042-523-1509

ご利用時間

月曜日～金曜日 10:00～18:00

第1・第3土曜日 10:00～17:00

(日曜祝日、上記以外の土曜日および年末年始は閉庁となります)



JR立川駅北口から徒歩2分です！

編集後記

日本の時間を気にしたことはありませんでした。単に、東北から電波を送ってもらえるようになって便利になったと思っただけです。しかし、今回日本標準時の話を伺い、改めて時間というものの不確かさを知り、驚きました。正確さを求めて、永遠に探索は続きますね。
(佐藤百合子)

「かくあるべし」から解放されれば、女も男も、持つ者も持たざる者も、もう少し自由に生きることができるような気がします。自由平等、社会と繋がり自己を確立できる教育を期待したいと思います。
(加藤由喜枝)

鈴木光司氏の印象講演前II人間の生死とメルヘンを贈り届けるロマン派推理作家。講演後II人生を楽しげに語るユーモア作家。いずれも持ち合わせた素晴らしい方でした。
(吉田孝)

小金井で「時」を作っていることを知って驚き、「また明日」で利用者として接する際の「一歩待つ」という心構えに感服、多くの発見や気づきがあるから取材は面白いです。
(高島佐保子)

今回の取材では、人はそれぞれ支え合いながら生きているのだと実感しました。取材にご協力いただきました皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。
(男女共同参画室)